

① 森浩一 編著；深萱真穂「宿題編」編

『京都学ことはじめ：森浩一12のお勉強』

(編集グループ<SURE>)

本書は、京都新聞に連載で掲載するために、様々な分野の研究者と著者が京都について対談した数多い収録テープの中から12人分をセレクトしてまとめたものです。著者の専門は考古学で、対談者は、中国音韻学・ドイツ文学・醸造学・発酵学と多領域におよぶ研究者ですので、様々な観点から京都を探究されています。対談から生まれた疑問・発見を宿題編として後書きで説明されているところがとても親切で、解りやすいです。我が町京都を一緒に勉強しましょう。(N.K.)

216.2 ||Mor

③ 櫻井寛 著

『人気鉄道でめぐる世界遺産』

(PHP研究所)

海外86カ所、延べ22万キロを鉄道で旅した所謂「乗り鉄」である著者が、77の鉄道を厳選して本書に掲載しました。

その77の鉄道とは、世界遺産に登録されている鉄道や、世界遺産をつないでいる、あるいは世界遺産の中を走る鉄道などです。約800点のカラー写真で紹介されています。その中には思わず目を見張る美しい景色、列車内で食べる食事、駅構内の様子など、いろいろなものが私達の目に飛び込んできます。

最後に「私の海外鉄道旅行テクニック」と題して、著者の経験から、海外を鉄道で旅行する時に知っておくと便利で、大事な知識が分かりやすく解説されています。(S.S.)

290.9 ||Sak



② 原沢伊都夫 著

『異文化理解入門：グローバルな時代を生きるための』

(研究社)

様々な技術進歩のお陰で、世界は小さくなりました。そのため現代社会では、異文化と全く接しないというのはあり得ないと言っても過言ではないでしょう。

本書では異文化コミュニケーションを学ぶためのキーワードとして「世界の多様化」「自国の多様化」「人間の成長」の三つを挙げています。

内容的にはいわゆる解説書ではなくて、実践的な面に主眼を置いています。

各章の終わりには「異文化よもやま話」があり、筆者の異文化体験が紹介されています。(T.F.)

361.45 ||Har

④ 清水康行 著

『黒船来航日本語が動く』

(岩波書店)

本書では、黒船来航の際、日本側の通訳が「私はオランダ語を話す」と英語で叫んだ一言が交渉の始まりだったこと、また、防備船で黒船に接近した浦賀奉行所の役人がフランス語で書かれた退去命令書をペリー提督たちに示したことが記されています。オランダ語の通訳者たちが、国の運命を左右する外交交渉の場に臨み交渉結果を条約文に纏めるといふ重責を負わされたことは大変興味深いことで、その苦勞が偲ばれます。

西洋語の論理と表現法に正面から取り組んで格闘した通訳者たちのお蔭で、西洋的概念に対する新たな日本語の表現が模索され、それが近代日本語に繋がっていったという観点など、通訳・翻訳に興味のある方には是非お勧めしたい本です。(F.O.)

810.25 ||Shi